

宇宙生命哲学

ことはじめ

78

北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋

宇宙から地球を見る練習

第3回相模原あじさいサミット(略称:あじサミ)の準備が、進行しています。「どんな境遇の方でも、誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指し、体験型学習・異業種歓迎・Z世代の意見尊重を3大コンセプトとしたサミットの今回のテーマは「つなげよう、今を生きよう」です。2022年の緑区中山間地域医療のあり方の現状把握から始まり、23年に緑区藤野芸術の家で行われた第1回あじサミ、24年に橋本から全市へ広げようと開かれた第2回あじサミを経て、今年は南区で県外ゲスト講師・行政・大学を巻き込んだ産官学共同型の開催を目指しています。会場は、本年創立125周年を迎える相模女子大学のご好意で、同大学7号館を丸ごとお貸し頂き、11月30日(曜日)

に開催されます。来年は中央区で開催予定です。

私は、トークショウの1つとして、「宇宙生命哲学」について講演します。今回は、ミニプラネタリウムが開設されますので、星空を観る楽しみを契機に、自作の地球と月の模型を自宅に持ち帰り、記憶に残してもらおうと企画しています。地球上から見る星空を宇宙空間で見ることができれば、私たちが住んでいる地球はどう見えるのでしょうか。

まず、白の画用紙全面を墨汁で黒く塗り、暗黒の宇宙を作ります。次に、にかわの水溶液に溶かした青色の蛍光塗料を直径10ミリメートルの円形の紙に、同様に、黄色の蛍光塗料を直径2・5ミリメートルの円形の紙に着色します。青い円が地球で、黄色い円が月です。これらを、黒塗りの画用紙の上に25センチメートルの間隔で貼り付けます。この画用紙上の地球と月は、宇宙における地球と月の位置関係を縮小したものです。灯りを消した部屋で、これにブラックライト(UVランプ)を当てると、暗黒の闇に、青い地球と黄色い月が浮かぶように輝いて見えます。

「宇宙生命哲学」の基本的な目的は、暗黒の宇宙に浮かぶ地球を観るという視点で、時空を超えて、地球上で繰り広げられる生命現象と文明のあり方を、子供からお年寄りまで全ての世代の方に考えてもらうことです。地球上では、人類も含めて全ての生物が過去から現在、そして未来へと原子レベルで繋がりを、循環しています。自作の模型を時々眺めて、宇宙から地球を観る感覚を体験し、「素敵な地球人になる終わりのない練習」に励んでもらえると嬉しいのです。



第3回あじさいサミット会場
相模女子大学7号館(同大学HPより)